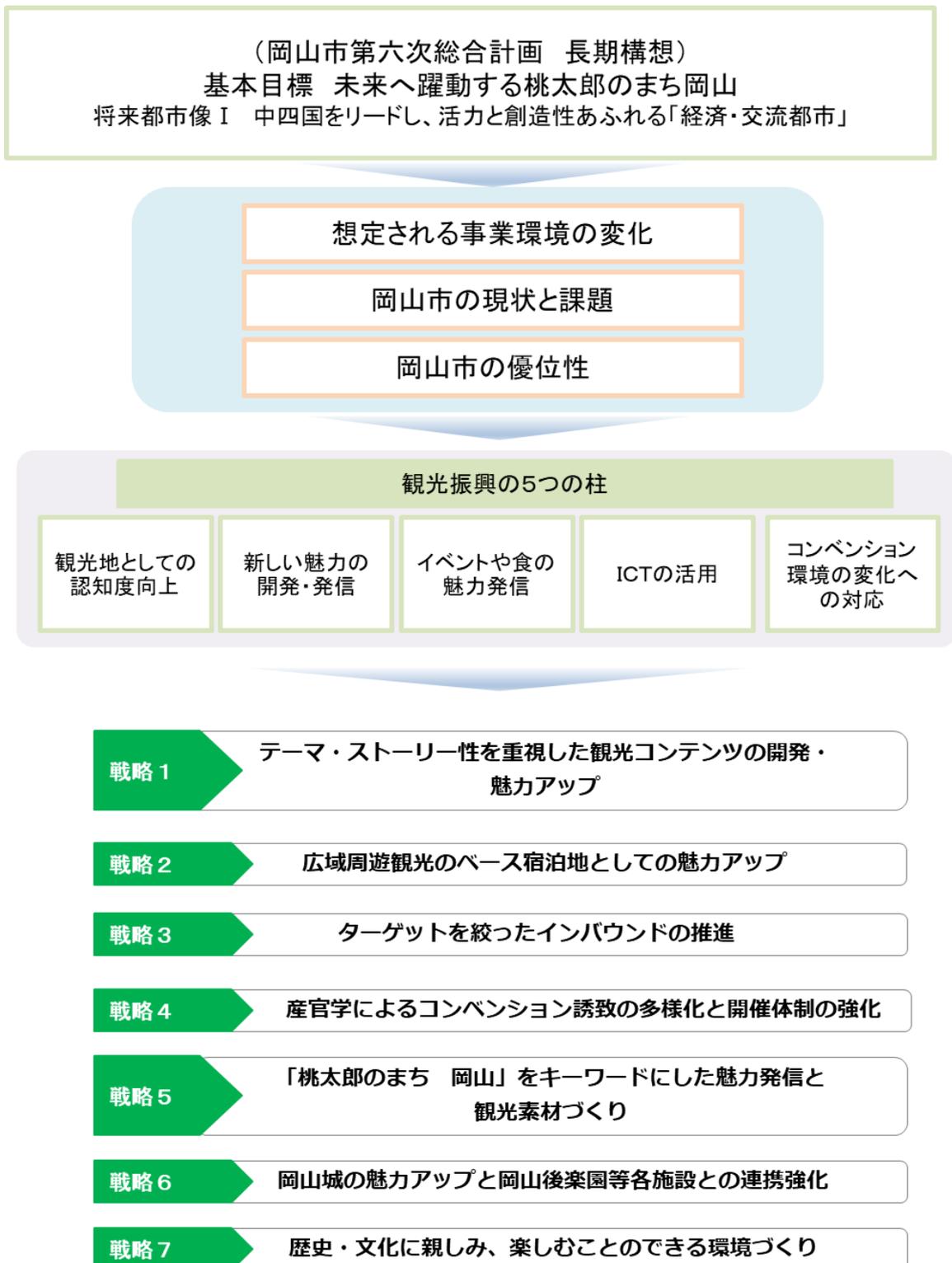


第5章 観光振興に向けた施策の実施方針

1. 考え方

第2章で述べたように、観光業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスによる国内経済や各国の市場の状況、観光ニーズの多様化、技術革新（AI、IoT化）の進展など、多様な変化に直面しており、大きな転換期を迎えています。今後5年間、第3章で整理した現状と課題に対し、岡山市の優位性を活かしながら、7つの戦略に基づいた事業展開を行っていきます。



基本目標 未来へ躍動する「桃太郎のまち 岡山」

将来都市像Ⅰ 中四国をリードし、活力と創造性あふれる「経済・交流都市」

基本方向1 地域経済の活性化による、魅力と活力あふれるまちづくり

政策4 国内外の人を惹きつける観光・交流の推進

施策① 広域的な観光・インバウンドの推進

戦略1 テーマ・ストーリー性を重視した観光コンテンツの開発・魅力アップ

戦略2 広域周遊観光のベース宿泊地としての魅力アップ

戦略3 ターゲットを絞ったインバウンドの推進

施策② 産官学連携によるコンベンションの誘致

戦略4 産官学によるコンベンション誘致の多様化と開催体制の強化

施策③ 戦略的なプロモーションによる都市ブランドの確立

戦略5 「桃太郎のまち 岡山」をキーワードにした魅力発信と観光素材づくり

基本方向3 歴史と文化が薫り、誇りと一体感の持てるまちづくり

政策8 歴史・文化による新たな魅力の創出と発信

施策① 歴史・文化資産をいかしたまちの魅力の創造と発信

戦略6 岡山城の魅力アップと岡山後楽園等各施設との連携強化

施策② 歴史・文化資産の活用と継承

戦略7 歴史・文化に親しみ、楽しむことのできる環境づくり

戦略 1 : テーマ・ストーリー性を重視した観光コンテンツの 開発・魅力アップ

戦略の背景とねらい

観光ニーズの多様化に伴い、様々な趣味・嗜好にあわせたツーリズムが開発されているとともに、観光客の本物志向が高まってきています。それらに対応するためには、あらためて本市にある地域資源を掘り起こし、それらを活用して多様なテーマに沿ったコンテンツの開発につなげる必要があります。また、観光地を単に見るだけでなく、その歴史的背景や成り立ちを深掘して発信することが本物志向に答えることとなります。

観光地としてさらに魅力アップをはかるためには、それら個別のコンテンツをつなげて、ストーリー性を持った発信が求められます。

【主な施策】

■日本遺産活用推進事業（新規）

（事業内容）

日本遺産に認定された「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」を通じて、国内外に向け積極的に情報発信し、観光客を受け入れるためのさまざまな対策を講じることで、日本遺産としての認知度向上や観光客誘致を図るとともに、地域住民等と協力したおもてなしの取り組みにより、住民の郷土への愛着や誇りを育みます。

■岡山まつり開催事業

（事業内容）

温羅の装いで踊る夏の「うらじゃ」や郷土の食と芸能を集めた「秋のおかやま桃太郎まつり」、500年以上の歴史があり、平成28年3月に国の重要無形民俗文化財に指定された「西大寺会陽」など、地元根付いた各種まつりや、滞在を促す各種イベントの充実等を通じて岡山の魅力向上を図ります。

■観光施設の活用事業

（事業内容）

大規模改修を行う岡山城天守閣や新たに整備した岡山市造山古墳ビジターセンター、足守プラザ、かながわSAKAGURA、たけべ八幡温泉など市内各地の観光施設等を適切に維持管理し、さらに有効に活用することで、観光客の満足度向上につながる受入体制を整備します。

KPI（重要業績評価指標）

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
観光客数（単位：千人）	—	



造山古墳



たけべ八幡温泉



さくらカーニバル



西大寺会陽（はだか祭り）



うらじゃ踊り



岡山城・岡山後楽園

戦略 2 : 広域周遊観光のベース宿泊地としての 魅力アップ

戦略の背景とねらい

岡山市の観光客数は平成 28 年をピークにここ近年横ばいで推移し、全国 1000 市区町村を対象とした「地域ブランド調査 2020」では、政令指定都市の中で魅力度 15 位、観光意欲度 14 位であり、アクセス優位性や資源をまだ十分に活かしてきていないといえます。

今後、中四国のゲートウェイとして国内外から人を集め、大きな経済効果を得るためには、東西南北にある主要観光地への移動に最適な宿泊地であるという優位性を活かしていく必要があります。

そのためには、近隣自治体と一体となった取り組みを進め滞在時間の延長につながる広域周遊観光を促進するとともに、市内における周遊企画の実施やイベントの充実を図ります。

また、2025 年日本国際博覧会などの大規模国際イベントや瀬戸内国際芸術祭などの広域にわたるイベントと密接に連携するとともに、岡山芸術交流や岡山マラソンなどの文化・芸術、スポーツイベントの活用、ナイトタイムエコノミーへの取り組みによりベース宿泊地としての魅力向上につなげます。

【主な施策】

■岡山後樂園と岡山城の連携【後述】

■広域観光連携宣伝活動

(事業内容)

本市と歴史・文化や自然環境において結びつきが深い岡山連携中枢都市圏の 8 市 5 町や瀬戸内海で結ばれている中四国の地域との連携を強化し、テーマやストーリー性に基づく資源の魅力向上を図るとともに、効果的な情報発信や観光宣伝を行います。

そのため、本市と一体となった周遊観光地として関係の深い倉敷市と構成する「岡山・倉敷観光推進協議会」や、日本遺産の構成市である総社市・倉敷市・赤磐市との「日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会」など広域連携の取組をさらに推進するとともに、「瀬戸内 4 県都市」(岡山市・広島市・高松市・松山市)による瀬戸内ブランド化の取組や体験型コンテンツの造成、発信などにより、本市が広域周遊ルートの拠点となり、宿泊地としての役割を担うことで、滞在型観光の振興を図ります。

■岡山まつり開催事業【再掲】

■地域特産品の振興と販路拡大（京橋朝市魅カアップ事業）

（事業内容）

観光資源として定着した京橋朝市を、他のイベント情報とともに効果的に情報発信を行うこと等により、滞在型観光の魅カアップを図ります。

■観光案内所の運営

（事業内容）

新たに移転整備した「岡山市ももたろう観光センター」の運営を行い、観光客に対する着地型観光の情報発信を行うとともに、カテゴリ－3※の観光案内所として訪日外国人観光客を含めた観光客のおもてなしの向上に努めます。

※日本政府観光局（JNTO）が行う外国人観光案内所の認定制度で、立地や案内機能等によりカテゴリ－3から1までとパートナー施設の4つに区分され、カテゴリ－3が最も高い区分となります。

K P I（重要業績評価指標）

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
延べ宿泊者数（単位：千人）	—	



京橋朝市



ツーリズム EXPO ジャパン（イベントへの出展）

戦略3：ターゲットを絞ったインバウンドの推進

戦略の背景とねらい

新型コロナウイルス感染症の影響により外国人観光客は激減しており、今後の見通しも感染症の収束、国家間の入国制限の状況などに大きく左右されます。

これまで、岡山市では、中四国のゲートウェイとしての利便性、航空便の就航状況、コンテンツの特性等を考慮し、東アジアを主要なターゲットとしつつ、フランスをはじめとした欧米エリア、ムスリムをターゲットとした東南アジアでのプロモーションを展開してきました。今後は、これらの国の状況を注視しながら引き続きプロモーションを展開するとともに、本市の強みである歴史・文化資源、ニーズの高まりが予想される自然・健康などのテーマに沿った取り組みにより観光誘客につなげます。

また、瀬戸内をはじめとした近隣の自治体との連携により広域での取り組みを図る中で、2025年日本国際博覧会や瀬戸内国際芸術祭など大規模イベントの活用も視野に入れる必要があります。

【主な施策】

■おokayama観光情報発信事業（インバウンド推進）

（事業内容）

本市への来訪者数の最も多い台湾をはじめとする東アジアや、タイ、マレーシア、インドネシア等の東南アジア、フランス、アメリカを中心とした欧米など、本市のターゲットとなり得る国に対するプロモーションを継続・強化し、滞在型広域周遊観光につながる体験型コンテンツやルートを確認しながら、本市へのインバウンドを推進します。

海外での旅行展の出展や海外メディア等の招請の他、Webサイト・SNSを活用した情報発信を積極的に行うことにより、知名度の向上に努めます。

■岡山型ムスリムツーリズム推進事業

（事業内容）

真庭市・吉備中央町と共同し、今後インバウンド市場をけん引すると言われる東南アジア方面からのムスリム観光客をスムーズに受け入れられるよう岡山独自の受入体制整備と、自然や健康志向を取り入れた体験メニューの造成を行ってきました。引き続き、真庭市・吉備中央町と連携し、国内において先行している受入体制のブラッシュアップを図るとともに、ムスリムにリーチする情報発信を行い、ムスリムフレンドリー岡山の認知度を向上させ、東南アジア方面を中心とするムスリム観光客の増加に努めます。

■観光案内所の運営【再掲】

K P I (重要業績評価指標)

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
外国人観光客延べ宿泊者数 (単位：千人)	—	
共同自治体内ムスリム観光客延べ宿泊者数 (マレーシア・インドネシア) (単位：人)	—	



海外プロモーション
(フランス観光展)



海外プロモーション (招請ツアー)



海外プロモーション (タイ観光展)



ムスリムフレンドリー岡山のロゴマーク



マレーシアからの教育旅行受け入れ

戦略4：産官学によるコンベンション誘致の多様化と開催体制の強化

戦略の背景とねらい

新型コロナウイルス感染症の影響で、コンベンションを取り巻く環境は大きく変化しましたが、中四国のゲートウェイとしての利便性の良さ、医療・福祉・学術分野の集積、岡山コンベンションセンターをはじめとしたコンベンション関連の立地の良さといったコンベンションシティとしての本市の優位性が変わることはありません。引き続き、岡山市、おかやま観光コンベンション協会、岡山コンベンションセンターが一体となった推進体制により、これまで以上に多様な会議主催者等への誘致を行うとともに、連携・協力協定を締結した岡山大学や岡山商工会議所等の産官学が連携し、誘致・開催支援体制を強化することで、地元でのMICE開催を促進します。

また、オンラインやハイブリッド等の様々な開催形態に対応できるような体制を整えることにより、さらなるコンベンション誘致につなげるとともに、参加者に対しては本市での観光・宿泊・飲食を促すことにより地域での消費額のアップを図ります。

【主な施策】

■コンベンション誘致対策事業

(事業内容)

- ・コンベンション開催事業補助金の交付
学会、大会・会議及びスポーツ大会・競技会を開催する場合、コンベンション開催事業補助金を交付しています。
- ・コンベンション開催支援
一定程度の参加者が見込まれる大会について、歓迎看板の設置や懸垂幕の掲出などにより参加者に対するおもてなしを行うとともに、協定を締結した岡山大学や岡山商工会議所等からキーパーソンとなる主催者のニーズを聞き取り、支援の拡充に取り組みます。
- ・コンベンション誘致・開催体制の強化
岡山大学や岡山商工会議所等との間でコンベンション誘致・開催体制を強化し、本市の情報発信力を高める会議の開催を支援するとともに、スポーツに関する大会・合宿などの開催支援、誘致支援を推進します。また、岡山駅周辺へのコンベンション・宿泊施設の集積をいかした施設の複合利用やその他の集客施設の有効活用により、多様なコンベンションの誘致・開催に取り組みます。
- ・国際会議の誘致
岡山市、(公社)おかやま観光コンベンション協会、(株)岡山コンベンションセンターが一体となり、ターゲットを絞った戦略的な国際会議の誘致・開催支援を行います。
- ・ユニークベニューの開発
岡山城や岡山後楽園でのユニークベニュー（特別な場所でのイベント実施により特別な体

験を創造する取組) 開催に加え、林原美術館や吉備津神社など新たに魅力的な場所を開発・提案することにより、主催者への訴求力を高めるとともに、参加者の満足度の向上を図り、コンベンションシティとしての魅力アップにつなげます。

K P I (重要業績評価指標)

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
コンベンション参加者数 (単位：人)	—	
国際会議開催件数 (JNTO 国際会議統計基準)	—	



岡山コンベンションセンター



岡山発情報通信シンポジウム



ユニークベニューの例 (曹源寺)



国際会議誘致の様子 (国際ミーティングエキスポ)

戦略5：「桃太郎のまち 岡山」をキーワードにした魅力 発信と観光素材づくり

戦略の背景とねらい

長期構想において、「未来へ躍動する 桃太郎のまち 岡山」が都市づくりの目標とされています。全国的に知名度が高く、岡山固有の歴史・文化に由来し、都市イメージとして広く浸透している「桃太郎」を積極的に活用し情報発信するとともに、「桃太郎のまち 岡山」としての魅力を感じることができる観光素材の充実を図り、本市を訪れる観光客の満足度や話題性を高めることにより、本市の都市ブランドの確立を目指します。

【主な施策】

■「桃太郎のまち おかやま」創造・発信事業 (事業内容)

古代吉備の遺産群を舞台とした日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち 岡山」の活用による観光誘客や地域の活性化に向けた取り組みと連携し、本市の強みを生かした観光コンテンツの開発により、未来に向けて新たな魅力が誕生し、成長し、躍動する「桃太郎のまち 岡山」を創造・発信し、本市の認知度の向上と観光地の魅力向上を図ります。

■おかやま観光情報発信事業（シティプロモーション） (事業内容)

全国的に広く認知されている桃太郎や桃・きびだんご等の特産物、地元スポーツチーム等を活用しながら新たな魅力を国内外に発信することにより、本市の知名度向上及びブランド力の強化に取り組めます。

■日本遺産活用推進事業【再掲】



白桃パフェ



KPI（重要業績評価指標）

桃ジュースが出る蛇口

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
観光客数（単位：千人）	—	



桃太郎のマンホール



吉備津神社



白桃



水辺のももくん



きびだんご

戦略6：岡山城の魅力アップと岡山後楽園等各施設との連携強化

戦略の背景とねらい

昭和41年に再建された岡山城は岡山のシンボルであると同時に、これまでも再建天守であることを背景に多様な活用がなされてきました。また、平成26年1月に設置された「岡山後楽園・岡山城等連携推進協議会」による連携事業等を通じて、両施設の入場者数は飛躍的に増加しています。さらに、大規模改修等により来訪者が楽しみながら体験・体感できる展示を取り入れつつ、コンベンション等への利用が図られる整備を行うなど、歴史と娯楽性を兼ね備えた岡山城の魅力アップを行うとともに、岡山後楽園等周辺施設との連携を強化していきます。

【主な施策】

■岡山城魅力アップ事業

(事業内容)

岡山城天守閣の大規模改修により耐震性を確保するとともに、体験・体感できる展示を取り入れるなど、これまで以上にわかりやすく岡山の歴史を伝えることで、来場者の満足度を高めていきます。

また、烏城公園内の階段への手すり設置や園路の整備などのバリアフリー化を図りつつ、適切な管理運営を行い、観光と歴史の調和のとれた空間とします。

これまで行ってきた天守閣の夜間の活用を改修により使いやすくすることでさらに利用促進を図るなど、娯楽性を兼ね備えた観光施設として、岡山城の魅力アップに繋がる取組を実施していきます。

■岡山後楽園と岡山城のタイアップ（岡山後楽園・岡山城等連携推進協議会）

(事業内容)

岡山観光の核となる岡山城・岡山後楽園等の連携をさらに推進し、ライトアップや四季を通じたイベントを実施するとともに、各施設の周遊を促進することにより、来場者の増加を図りつつ、宿泊を伴う観光など滞在時間の延長につながる取組を実施します。

KPI（重要業績評価指標）

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
岡山城天守閣入場者数 (単位：千人)	—	



岡山城



幻想庭園・烏城灯源郷（岡山後楽園・岡山城）



岡山城天守閣夜間利用



備前焼工房

戦略7：歴史・文化に親しみ、楽しむことのできる環境づくり

戦略の背景とねらい

岡山市には歴史・文化資源が数多くあり、国指定史跡数は政令指定都市の中では京都市に次いで2番目となっています。これらの多様な観光資源を有している一方で、地域の歴史・文化資源について、市民のアイデンティティを育むための取組が十分でなく、また人口減少の進行等により、地域の祭りや郷土芸能等が今後文化として継承されていくか懸念されています。

そのため、各地域固有の歴史・伝統・文化を地域住民自らの手で保存・活用し、未来に向けて継承・発展させる活動を支援するとともに、こうした歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会を増やしていきます。また、歴史・文化資源の由来等を顕彰し、市民、来訪者が歴史・文化に親しみ、楽しめる環境づくりを進めることで、郷土の歴史的価値への認識を深め、市民の郷土愛と誇りを育みます。



【主な施策】

■観光ボランティアガイド育成事業

(事業内容)

市民が本市の歴史・文化に親しみ、観光客へ紹介する役割を自ら担うことで、本市への理解と愛着を育むとともに、観光客に本市の歴史・文化を知ってもらい、理解を深めてもらうことで、また訪れたい観光地づくりを目指します。

また、古代吉備の遺産群を舞台とした桃太郎伝説の日本遺産認定を受けて、構成文化財等の地元や観光・商工関係者によるワークショップ等を行い、構成文化財の魅力アップと人材育成に取り組めます。

■郷土芸能・郷土民踊の普及・育成

(事業内容)

市民に郷土愛・郷土理解を深めてもらうため、郷土に根付いた芸能の振興と民踊の普及を促進することで、本市の歴史・伝統・文化を次世代へ継承します。

■日本遺産活用推進事業【再掲】

KPI（重要業績評価指標）

①戦略のアウトカム

指標名	基準値	目標値
観光客数（単位：千人）	—	



観光ボランティアガイド



郷土芸能



JAPAN HERITAGE

日本遺産

桃太郎伝説

日本遺産ロゴマーク



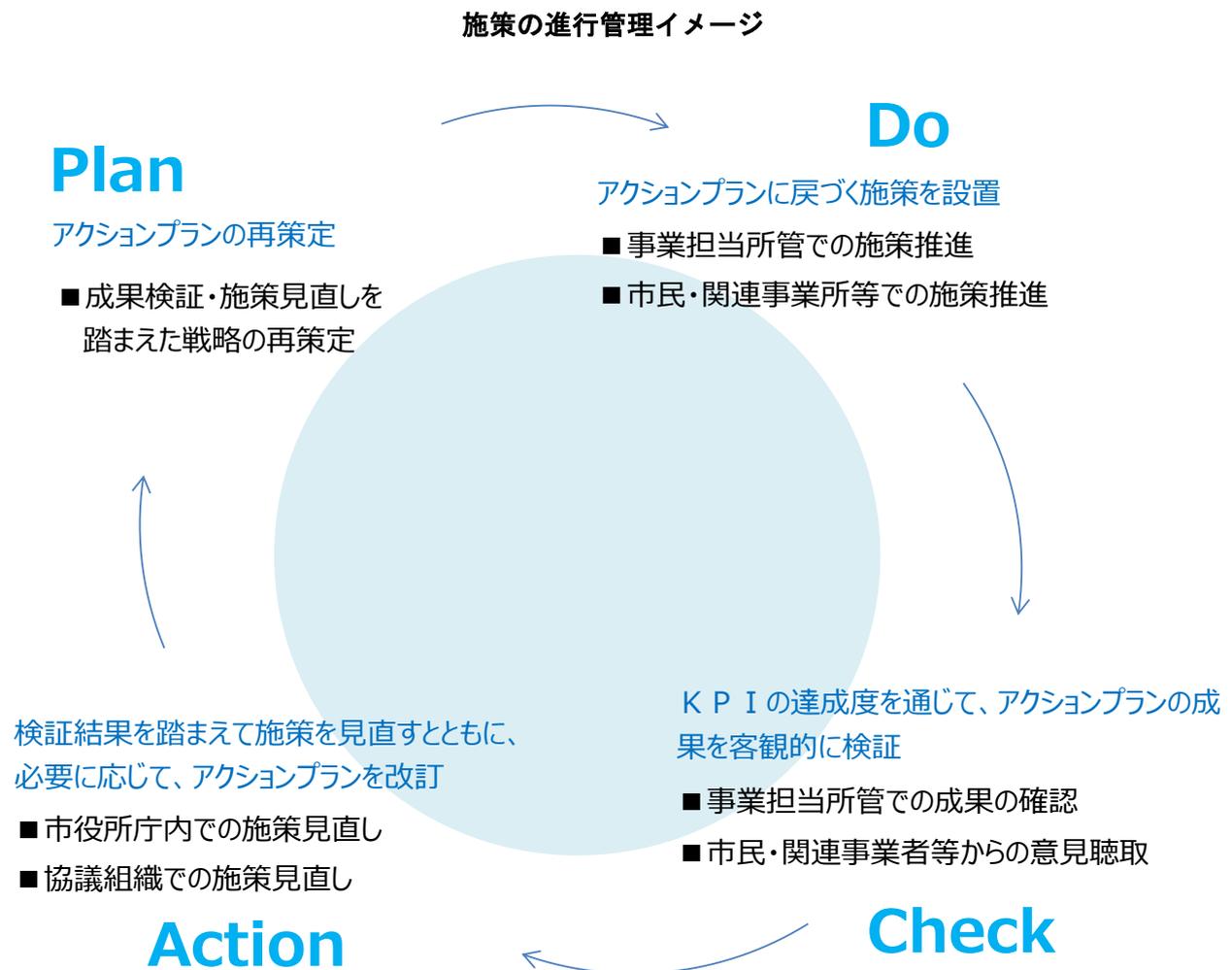
ワークショップの様子

（日本遺産おもてなしプログラム）

第6章 評価と推進体制

1. 評価

アクションプランに掲げた各戦略、事業については、各年度の予算編成において具現化を図ることとし、産業観光局において進行管理を行います。施策の進行管理は、戦略ごとに実施、評価、改善までの管理を行います。また、本計画は、概ね5年後の将来を見越して策定したのですが、今後、市の関連計画の改訂や国内外の政治・経済の環境変化などが予想されます。こうした変化に対応するため、必要に応じて見直しを行うこととします。



2. 推進体制

アクションプランに掲げる各事業の実施にあたっては、市内各事業者や市民から寄せられる声を踏まえつつ、これまで様々な事業において協力関係を築いてきた観光団体、経済団体、大学、国や県の各行政機関、地域活動団体等と協働し、岡山市の観光に関わる様々な主体と連携する推進体制を構築します。

また、市内部においては、担当局である産業観光局のみならず、関係する各部局と連携して、目標達成に力を合わせて行きます。さらに、岡山連携中枢都市圏を構成する各市町とも適切な連携を図っていきます。